



ホネケーキ以外は
キレイに切れません

写真のホネケーキを切るときは勇気が必要でした。私たちのハダをこんなに美しくしてくれる洗顔料に、ナイフを入れるにはしのびがかったからです。

ゆたかな空気がお肌を驚くする「ハチミツ洗顔料」

資生堂
ホネケーキ

三〇〇円入 箱用二五〇円二〇〇円入 箱用一八〇円
ゼリー五〇円二〇〇円入 箱用一〇〇円
お買求めは資生堂チヤンストアか有明デパートで

資生堂ホネケーキにナイフを入れてみました。ちよつと力がいりませんが、スツバリ切れます。表面がバラバラとこぼれません。高価なオランダ産チーズをスライスするあの感じに似ています。ミルクがチーズになるように、ハチミツはホネケーキになりました。ネリにネツた、いわば日と月の結晶です。だからよく言われます。ホネケーキはニクらしいほどへらない、と。



石岡瑛子 I デザイン

Eiko Ishioka I design

マイルス・デイヴィスのアルバム「TUTU」でグラミー賞（1987年）、舞台「M. バタフライ」でニューヨーク批評家協会賞（1988年）、映画「ドラキュラ」でアカデミー賞（1993年）を受賞するなど、ジャンルを超えて世界的に活躍したデザイナー、石岡瑛子（1938-2012）。

後年、ニューヨークに拠点を移し、国際的に評価された石岡のデザイナーとしてのキャリアは、資生堂（1961年入社）から始まりました。1966年、前田美波里をモデルに起用し、日本の広告史上初のハワイロケを行ったキャンペーンでは、澁刺とした新しい女性像を提示、話題を呼びます。独立後の70年代には、バルコや角川書店の仕事をはじめ、次々と既成概念にとらわれないセンセーショナルな広告キャンペーンで時代を牽引しました。

本展では、石岡の原点ともいえる60～70年代の東京時代の仕事を中心に、ポスターやCM、レコードジャケットや書籍のデザイン、スケッチなど、約500点を一挙公開します。変化し続ける社会の中で、自分を見据え、自分を見失わずに、表現の道をまっすぐ歩き続けた石岡。「I（私）」をつらぬいた比類なき表現者の熱いエネルギーを感じてください。



ポスタービジュアル Design: 永井裕明

開催概要

会 期 2025年4月19日(土)ー6月29日(日)
 休 館 日 水曜日
 会 場 富山県美術館 展示室2、3、4
 主 催 富山県、石岡瑛子展実行委員会(富山県美術館、北日本新聞社)
 監 修 Team EIKO(石岡怜子、河尻亨一、永井裕明[N.G.inc.])
 特別協力 DNP文化振興財団、DNPアートコミュニケーションズ
 企画協力 池村裕子(S2)
 特別協賛 SHISEIDO
 協 賛 大谷製鉄、Kコスメ・ポーテ、五洲薬品、NIX JAPAN、MAE、
 ユニゾーン、リードケミカル、リッachel(五十音順)
 協 力 PARCO
 観 覧 料 一般1,500円(1,300円)、大学生1,000円(800円)、
 高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

イベント

ギャラリートーク

本展担当学芸員が会場内で見どころをお話します。

日時: 2025年6月7日(土)、6月13日(金)、6月21日(土)

いずれも14:00～14:30

開始・集合場所: 2階展示室4(本展会場入口内すぐ)、参加自由

※当日有効の企画展チケットが必要です。



石岡瑛子©Kazumi Kurigami 1983

POINT

時代を牽引した名作の数々

貼るやいなや次々と盗まれたことでも知られるポスター「太陽に愛されよう 資生堂ビューティーケイク」をはじめ、PARCOや角川文庫の広告など、当時、誰もが街で目にした石岡の、時代を牽引した代表作が集結します。

校正が示すデザイナーの執念

石岡のスケッチやメモ、校正紙（試し印刷したもの）から、彼女の意図や制作プロセスがうかがえます。とりわけ、校正紙にびっしりと手書きされた朱字（あかじ）の修正指示からは、妥協せず、一心に自分の理想とするイメージを追求したデザイナーの情熱が感じられます。

才能あふれる表現者たちとの協働 （コラボレーション）

芸術家レニ・リーフェンシュタール、トランペット奏者マイルス・デイヴィス、映画監督フランシス・フォード・コッポラ、etc. ——様々な分野の、一流と呼ばれる表現者たちとコラボレーションした石岡。彼らと真摯に向き合い、お互いに触発し合って、親密な人間関係を築き上げました。彼らの残した刺激的な仕事の数々をご堪能ください。



宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展

Technical Essence of Original Illustrations for Children's Books
- from the Collection of Miyagi Museum of Art



林明子《ひよこさん》5-6頁原画 2013年

宮城県美術館所蔵作品より、月刊絵本「こどものとも」を中心とした絵本の原画をご紹介します。同館の絵本原画コレクションは、「こどものとも」の初期作品と、そこから絵本出版界に羽ばたいていった作家たちの手による原画を核に形成されています。子どもたちに上質な絵本をとの思いから1956年に創刊された「こどものとも」は、洋画、日本画、漫画、商業デザインなどあらゆる分野に携わる美術家たちが絵を寄せたことで知られ、美術家たちはその新規の舞台で、思いの発想で絵を描きました。描き手たちの絵が物語

世界を魅力的に膨らませたことはもちろん、表現を支える材料・技法の選択や画面構成といった造形上でも、彼らはまた清新な感覚を発揮しています。本展では、原画の前に立って直に向き合うからこそ見て取れる、手の痕跡や、画材・質感に注目します。絵本に親しんできた方だけでなく、これから絵本の世界にふれるみなさんにとっても、原画に接近して見る体験を通じて、絵に込められた描き手の思考や愛情にふれていただける機会となることでしょう。

開催概要

会 期 2025年7月12日(土)ー8月24日(日)
休 館 日 水曜日(ただし8月13日は開館)、
7月22日(火)
会 場 富山県美術館 展示室3、4
主 催 富山県美術館、宮城県美術館、富山新聞社、
北國新聞社、チューリップテレビ

協 力 福音館書店
企画協力 キュレイターズ
協 賛 ダイト
観 覧 料 一般1,100円(850円)、大学生550円(420円)、
高校生以下無料、一般前売り850円
※()内は20名以上の団体料金



左上：長新太《がんばれさるのざらんくん》10-11 頁原画 1958年 左下：朝倉摂《てんぐのかくれみの》14-15 頁原画 1956年
 右上：関野準一郎《うしかたとやまうば》12-13 頁原画 1972年 右中：田島征三《ふるやのもり》表紙・裏表紙原画 1965年
 右下：中谷千代子《ジオジオのかんむり》18-19 頁原画 1960年 すべて宮城県美術館蔵

POINT

宮城県美術館の特色 絵本原画コレクション

宮城県美術館の特色の一つに、絵本原画コレクションがあります。今回はその中核をなす福音館書店の月刊絵本シリーズ「こどものとも」を中心に、36タイトルの絵本の原画を展示します。

さまざまなバックグラウンドを持つ作家たちとその多様な表現

子どもたちが純粋に楽しめる、芸術を感じ取る豊かな目と感性が養われるような絵本づくりを方針とした「こどものとも」。幅広い分野の美術家を起用し、多彩な顔ぶれの作家たちが原画を描きました。日本画家の秋野不矩（ふく）や朝倉摂、洋画家の吉井忠、漫画家の長新太など、作家20名の作品を紹介します。

原画だからこそ見える質感や手の痕跡

例えば関野準一郎《うしかたとやまうば》では、木版画ならではの木目のあとを生かして水の流れを表現しています。また、田島征三《ふるやのもり》では、厚く塗り重ねられた絵の具の盛り上がりを見ることができます。紙面で見るとは異なる、原画ならではの素材の味わいや手わざの迫力をお楽しみください。

「没後20年 東野芳明と戦後美術」関連イベント

スライドレクチャー『東野芳明講演「瀧口修造と戦後美術」を聞く』

2025年3月8日(土) 14:00～15:45

企画展「没後20年 東野芳明と戦後美術」の関連イベントとしてスライドレクチャーを開催しました。このイベントでは、東野芳明が1982年9月4日に、富山県立近代美術館の企画展「瀧口修造と戦後美術」に際して行った講演の音声を、関連画像と共に再生しました。講演の内容は、既に『富山県立近代美術館 講演会抄録集』（2003年、発行：富山近美友の会）※に掲載されていますが、音声には抄録集では伝わらない息遣い、雰囲気があり、時空を超えて講演会に参加しているような感覚を味わっていただけたことと思います。

※当館図書コーナーや富山県立図書館等でご覧いただけます。



まるごとTADこども美術館＋ 関口光太郎「世界さん」

2025年1月30日(木)～3月4日(火)

会場：1階TADギャラリー

昨年の10月12日から新聞紙×ガムテープアーティスト関口光太郎氏と様々なイベントを展開してきた「まるごとTADこども美術館」。フィナーレとして、期間中に開催したワークショップの参加者作品を関口氏の作品と共に展示する成果展を開催した。子どもたちが新聞紙とカラフルなガムテープで作った作品は、関口氏が制作した空飛ぶ「世界さん」の背中の上に加わり、「世界が一人の人間だったら…」をコンセプトの一つの作品となった。会場内には、スタンプラリーや世界さんからのメッセージおみくじを引けるコーナーも設置。実際にワークショップに参加した親子が自分で作った作品を探しに訪れる姿も見られた。



アーティスト@TAD「土屋仁応―静けさの向こうに」

アーティスト@TADは、活躍中のアーティストを富山県美術館（TAD）に招き、滞在制作やワークショップ、作品展示を通して、制作手法や考え方を紹介するとともに、その成果を含む作品展を開催するものです。第8回目の招待作家は、彫刻家・土屋仁応（つちやよしまさ）氏です。

ワークショップ「クスノキのレリーフをつくろう」を2025年1月18日、19日に開催。彫刻刀の扱い方、木の彫り方、着色方法などを土屋氏が丁寧に教えてくださり、参加者10名それぞれに愛着のある動物のレリーフが出来上がりました。

また、3月28日には公開展示作業を実施。土屋氏の作品・会場を創出する繊細な作家の姿を拝見できました。展覧会は新作1点を含めた近作7点で構成されます。是非ご覧ください。

開催概要

展覧会会期 4月3日(木)～6月15日(日)
会場 1階TADギャラリー（無料）



撮影：柳原良平

トピックス

2025年度 展覧会スケジュール

石岡瑛子 I デザイン	2025年4月19日(土)～6月29日(日)
宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展	2025年7月12日(土)～8月24日(日)
ポップ・アート 時代を変えた4人	2025年9月6日(土)～10月26日(日)
DESIGN with FOCUS デザイナーの冒険展	2025年11月8日(土)～2026年1月25日(日)
ハッチポッチ 藤枝リュウジの世界	2026年2月7日(土)～4月上旬

トピックス

TADのポスターを、新村則人氏が担当します！

「宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展」から当館企画展ポスターのデザインを、グラフィックデザイナーの新村則人（しんむらのり）氏が担当することとなりました。新村氏は、当館が開催している「世界ボースタートリエンナーレトヤマ（IPT）」の第7回（2003）、第8回（2006）、第11回（2015）での銅賞受賞とともに、当館開館時には子供たちのポスター制作ワークショップを行っています。

新村氏による当館企画展ポスターの第一弾「絵本のひみつ展」では、幅広い世代が楽しめる展覧会の雰囲気伝えたいとお願いしました。絵本のシルエットから浮かび上がる原画、その1枚1枚の絵としての魅力が溢れる会場を予感させます。また、今号から「TAD Letter」も新村氏のデザインとなります。



吉澤美香《にー24》(1991年)

ABS樹脂、シルクスクリーンインク 201.8×301.5cm(3枚パネル)



作品画像提供：ギャラリー・アートアンリミテッド、撮影：加藤 健

吉澤美香の作品は、1980年代、二度にわたって当館の前身である富山県立近代美術館で紹介されている。「第2回富山国際現代美術展」(1984年)、「現代美術の動勢 - 絵画 PART2」(1988年)において、大きく緩やかに弧を描くように、そして軽快にストロークを走らせた作品を発表した。女性の社会進出が推し進むなかで、美術の領域でも新しい世代の女性作家が登場した時代、当時20代の吉澤もその一人と捉えられた。旧近美での二度の企画展の前後、吉澤はサンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル)やドクメンタ(ドイツ)といった海外の現代美術展でも注目を集めた。

絵画を志した学生時代から、吉澤はキャンバスに油絵具で描く必然性に疑問を抱きながらも、生活空間やアトリエにある身近なモノを紙に描いていくことで、その手を止めなかった。やがて、社会の大きな事象よりも、小さな日常にある些細なモノや事象を掬い上げていくことに自分にとっての事実や現実があること、それが描く線に乗っていくことに気づいたという。生まれた線の繋がりや、やがて描く身振りそのものの大きな

ストロークへと展開していく。

描く抵抗感が少ない支持体を求めて、表面が滑らかなビニールシートや薄い樹脂板を選び、そこに定着する絵の具を求めて、樹脂用のシルクスクリーン印刷インクで描くことに辿り着いた。薄い支持体は絵画と展示空間の境界を曖昧にし、印刷用のインクで描き、拭き取り、また描いていくという営みや息遣いのような痕跡は支持体を超えて広がっていく。

やがて吉澤の作品には、《にー24》(1991年)のように回転体あるいは、プロペラのような飛行体を連想させる形が現れる。日常のなかで目にとまった何かの形から始まっているのかもしれないが、これもまた、より大きな動きとスピード感を求めた軌跡なのだろう。見る者の側に迫る大きな渦は、回転しながら浮遊しているようにも見え。そこに重々しさはなく、ストロークの間を空気が軽やかに通り抜けるようだ。描く軌跡とともに、この間(あわい)のような空白の存在もまた、吉澤が描き続ける領域なのかもしれない。

学芸課副主幹 稲塚 展子

富山県美術館 (TAD)

〒930-0808 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内) Tel.076-431-2711 Fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>